

まとめ

- ARTは、CD4+細胞数やHIV-1 RNA量にかかわらず、母親の健康のため、また、母子感染を減らすために、HIVに感染しているすべての妊婦に対して開始すべきである。
- 一般的に、抗HIV薬は完全なウイルス学的抑制を目標とし、3剤併用療法（妊娠していない患者と同様）として投与すべきである。
- 出生前に抗HIV薬に曝露された全例をAntiretroviral Pregnancyレジストリに登録しなければならない（<http://www.apregistry.com/>）。
- 早期診断は、HIVに感染した乳児の管理とHIV関連の合併症および死亡の予防においてきわめて重要である。
- HIVに感染した乳児および小児における疾患の進行は、成人とは異なり早い。
- 米国、欧州およびWHOのガイドラインは、HIVに感染したすべての乳児と小児がARTを受けるべきであることに合意している。